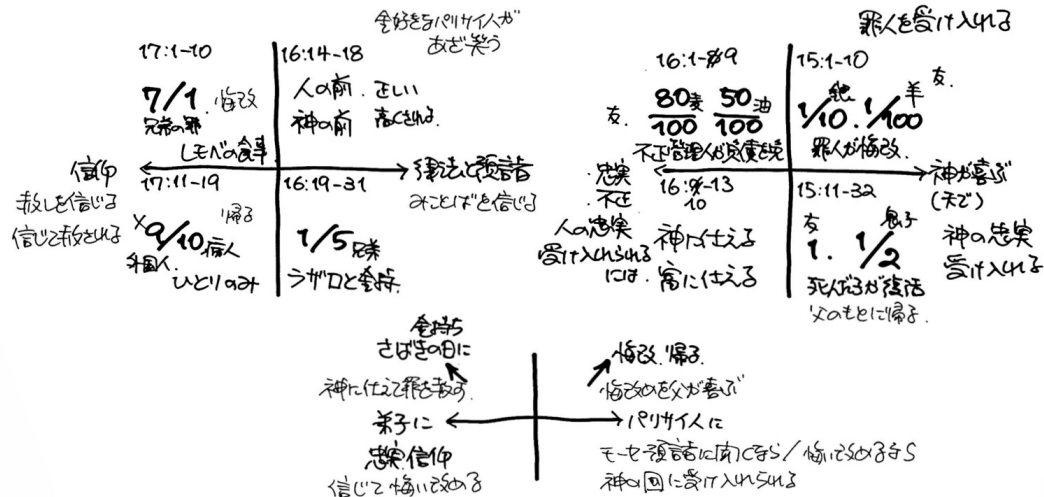




ルカ福音書15:-17:19

2017.3.2

ルカ15:-17:19



ルカ福音書15章から17章19節まで。2つの大きな区分になります。15章から16章13節までと、16章14節から17章19節までの2つの段落、ルカ福音書の中で例え話がたくさん出てくるところですね。

15章は前にもやっていますが、罪人が悔い改めるならば、天で喜びが湧き起こるということがこの15章です。出だしに、取税人、罪人が一緒に来て食事しているということをパリサイ人がつぶやきます。これに対して答えているということで、パリサイ人、律法学者たちに対してこの話をしている段落です。

羊100匹で1匹、10枚の銀貨で1枚、この100分の1、10分の1。兄弟がいますから、2人のうち1人が帰ってくるということで(2分の1)、最後にお兄さんに対して話す。このお兄さんはパリサイ人です。悔い改める、悔い改める、帰ってくる、見つかる、帰ってくるというところで、この一致があります。その話に続いて今度は、弟子たちにも話されましたというのが16章です。ですから、この15章の例え話と16章の例え話が、バラバラではなくて続けて見るものとして書かれている。しるしとしては、(15章)この弟は放蕩して湯水のように父の財産を使ってしまったということと、こちら(16章)の不正な管理人ですね。不正な管理人の主人、金持ちの主人の財産を乱費している。この「乱費している」と「放蕩している」が同じ言葉なのですね。そこから話がスタートしている。「父のところに行って、そうしましょう」、「そうしましょう、こうすれば受け入

れられるはずだ」と言っている放蕩息子としもべとは、同じような面があります。それは前回も分析したところです。

こちら(16章)は100分の50、100分の80という感じですね。(15章)100分の1、10分の1、2分の1、(16章)100分の50、100分の80。9節が前は下(16章)の出だしになっていますけど、この9節は上(15章に続くもの)でしょう。前の段落というように見るものだと思いますので、その区切りを(今回は)変えました。この不正な管理人が寝られた話のポイントはどのようなものかというのを見ていましたが、今回はそうかどうかということだろうと分かりました。この「負債をゆるす」。負債をゆるされた者はその人を受け入れるという忠実に信頼している。(15章)お父さんは帰ったら受け入れてくれるということに信頼している。受け入れてくれる。こうすれば必ず父は受け入れるという忠実に訴えている。こちら(16章)はその負債をゆるす、罪をゆるされるものは受け入れられるということを利用して、そのことをうまくやったという風に言われている。貧しい人の負債をゆるすなら、その人は受け入れるということで、この「不正の富で自分のために友を作りなさい」の「不正の富」は、不正を行って自分に集めた富でとか、この世の富でということも言えるのかもしれませんが、富をここで正しく使っていない、ゆるして借金をチャラにすること自体は、富の正しい使い方ではないということなんだろうと思います。それは、このストーリーの15章からのところは、罪人を受け入れて食事するというところで話が始まります。この話を全部終わったところで、16章14節から、金好きなパリサイ人が一部始終を聞いて、イエスを嘲笑う。この人たちは正しいことをしていると考えているわけです。自分達は忠実だと思っているので、この負債をゆるすとか、神に仕える事を優先するということは、馬鹿げているということで、嘲笑っているわけですから、この世の観点で言うと、富の使い方が正しくないということなんでしょう。その「罪をゆるす、負債をゆるす」ということによって「友を作りなさい」という風に言われているところなのだろうと思います。ここに友がいて、ここにも友がいて、ここにも友がいて、ここにも友がいる。誰が兄弟なのかということも暗示しているように思われます。そうして神に仕えるものでなければ受け入れられませんというここ(16:1-9、16:10-13)ですね。この忠実という言葉は信仰という言葉と同じグループなのですね。信じるのと信仰と忠実と同じ信頼するということで同じようなことです。

今度、この後半の方16章14節からのところを見ると、金好きのパリサイ人の話をするのですけれど、この中に「信仰を増してください」とか「あなたの信仰が癒やしました」というような、この信仰の話が続いて出てくるところと、この忠実であるということが並行しているところなんだというふうに思います。

後半は、この「律法と預言者はヨハネまでです」「無理に入ろうとしています」という話と、「ラザロが死んで金持ちも死んでハデスでどうなっているか」というストーリーとか話として続いているということですね。それでここも16章の出だしと同じように、「弟子たちにもこう言いました」という話が続きます。パリサイ人たちに話をして弟子たちにも言います。金持ちのパリサイ人たちに話をして弟子達にも言いますというように「パリサイ人に話す」「弟子たちに話す」という同じような流れになっています。

(17章)この弟子たちに話す中で「7度罪を犯しても悔い改めますと言うのであれば赦してやりなさい」と。それで信仰を増してくださいと頼んで、その後に今度10人癒されたのに9人はどこかに行ってしまった帰ってこないという話があります。7倍みたいな感じですね。7分の1ではなくて、7倍という数字がここにも出てきますね。何か特別なことをその信仰の力によってするかのように思って使徒たちは聞きますけれども、まあそうじゃないよと言っているところでいうと、この罪を赦すということが、いちばん信じて

いる忠実であることの表れということなのだろうとこのつながりで思います。10人のらい病人のうち癒された9人はどこかに行きますけども、帰ってくる。悔い改めるのも帰るという話ですね。帰ってきたのは1人だけ。その異邦人の人だけでした。信仰によって癒されたということですから、悔い改める、戻ってくる、神様の忠実に信頼している。父のような愛を持ってる神様のところに帰るということが、悔い改める、信仰の現れなんです。信じているという人が一番しなきゃいけないんですよというようなことが言われてるんだと思いますね。

でこのアブラハムの父アブラハムと言っているようなところが、ここにも兄弟が5人いますと。この人は5人兄弟なのか、他に5人いて6人兄弟なのか分かりませんが、ここも5分の1という感じですね。そういう数字的なつながりも見えていくことはできると思います。10分の1が見つかったと喜んでいるのと、10分の1しか戻ってこなかったというようなところで、このストーリーがひとつだよということが分かるような形だというふうに見ています。この4つの組み合わせがどうも似ているんじゃないかと。この1、2、3、4とか1、2、3、4と1、2、3、4と1、2、3、4という形で似てるんじゃないかと見ているのがこの図です。最初の4つの方は神様が喜んでくれる。神様は必ず喜んでくれます。このように喜びがあるのと同じように、必ず神様は悔い改める戻ってくる者、見つけられた者を喜ぶんですという神様の忠実ということですね。

それと弟子達に言っている方のこちら(16:1-9)は、負債をゆるされた者は、忠実であるということですね。(16:10-13)富に仕えるのではなくて、まことの富を任せられる。これは小さいことに忠実。その意味で友の罪をゆるす、兄弟の罪をゆるすということに、このまことの富が任せられるということなんだと思います。この2つは弟子たちに、忠実な者は受け入れられるというなことを教えているわけですね。こちら(15:1-10、15:11-32)は、神様が父のように忠実である。見つけた人のように忠実であるという神様側と人側の話が対比されている。ゆるされた人の忠実、罪人を受け入れる神様の忠実。

16章(14節)からの方は、預言者と律法を聞いている。預言者と、律法に聞きなさいと言われてます。それで十分ですという風に言われてるほうですね。みことばを聞く、預言の言葉を信じる。これが信じるなら悔い改めることになるわけですけども、これが正しいことだというのがこちら。

こちら(17章)は、罪はゆるされるということを経験するのが良い信仰。信じるならゆるされるという事も、同じひっくり返しみたいなのですけど、みことばを聞いて行う。みことばを聞くということは、信じることですけど、(16:14-18、16:19-31)みことばを聞くことと、(17:1-10、17:11-19)罪の赦しを行う、信じている行動をするということが、みことばを本当に聞いているかどうかであらわれているというような対比になっているかと思います。こちら側(15:1-10、15:11-32)(16:14-18、16:19-31)が、パリサイ人に対して言っている方ですね。聞きなさいと。こちら側(16:1-9、16:10-13)(17:1-10、17:11-19)は、弟子たちに信じるようにと忠実を教えているというふうに分けられるのかなと思っています。こちら(クロス15:1-10、16:10-13)(16:14-18、17:11-19)は、悔い改める、戻る、帰るのがテーマです。それと(15:11-32、16:1-9)(16:19-31、17:1-10)悔い改めなければ裁きの日に裁かれますよというのがこちら(のクロス)。

悔い改めを喜ぶ父は喜んでくださいます。モーセと預言者に聞くなら悔い改めることになる。悔い改めるなら神の国に受け入れられる。神に仕えて罪を赦す。信じて悔い改

めるとうな4つのくくりで、この大きな2つの段落が共通しているということだと思います。